

ニュータウン再生には、誰が取り組むのか？ ～先進事例の研究とフラワータウンでの実践～



自然・環境マネジメント研究部 環境計画研究グループ

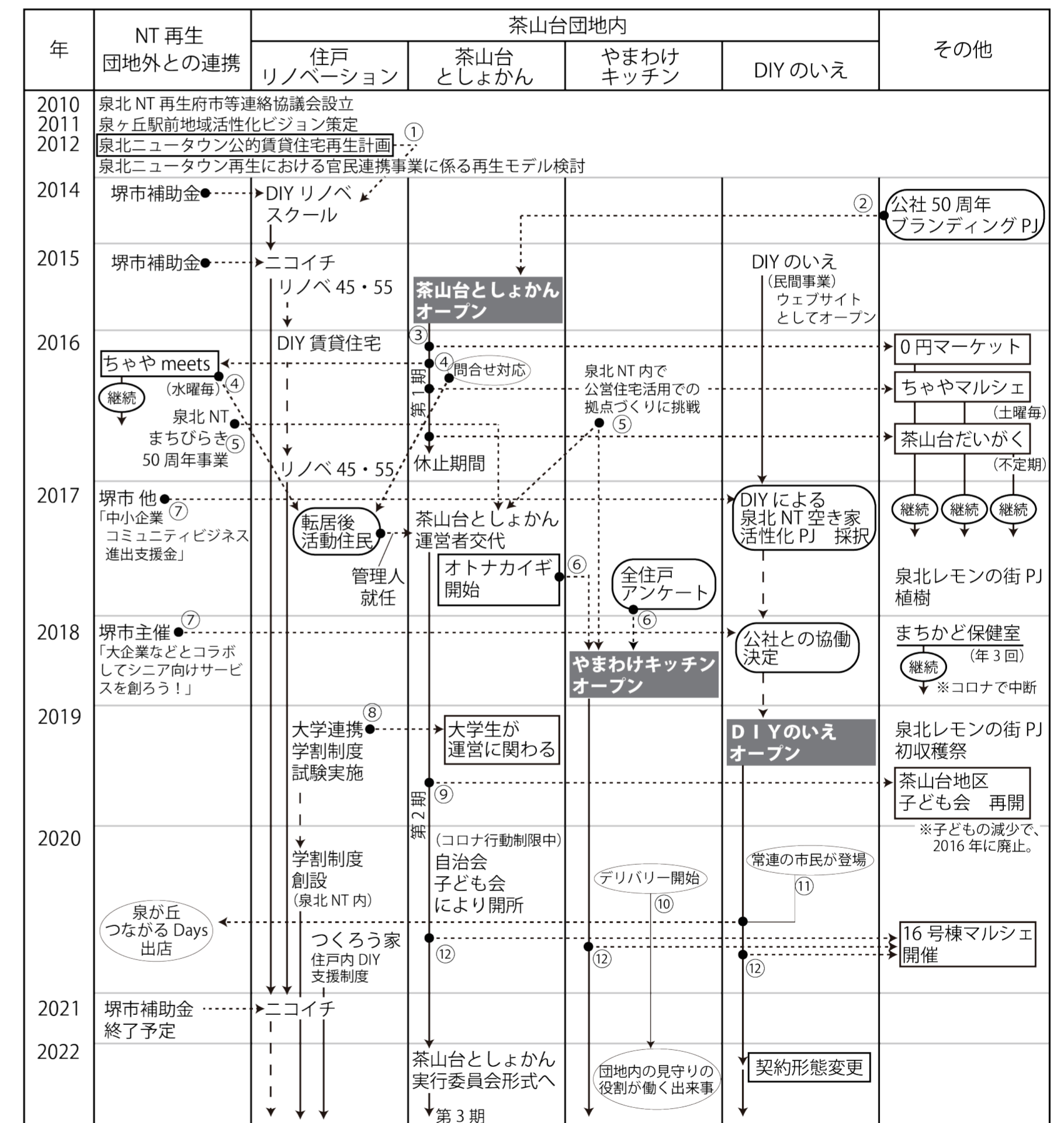
福本 優

私は、博物館のあるフラワータウンのように、一定規模以上の開発行為によりつくられたまちであるニュータウン再生の研究を進めています。一般的な村落や市街地とは異なり、一度に大規模につくられた街は、暮らす市民の年齢層に偏りがあり高齢化が他地域よりも顕著に見られたり、建設した施設は同時に老朽化します。こうした課題をどのように解決することができるのか、先進事例の研究を進めています。右の図は、1つの成功事例である大阪府堺市にある茶山台団地の再生を誰が、どう取り組んだかを整理した図です。公共が作ったまちですから、公的主体は主導的な立場を担いつつ、多様な市民の協働により成り立つことができました。

同時に、フラワータウン再生の取組にも関わらせていただきます。まずは、多様なステークホルダーが協働できる素地をつくれるように、みんなの意識を共有できる風景づくりに取り組んでいます。



◀フラワータウンフェスティバルでの道路の広場化実験の様子。フラワータウンの駅前も、もっと人に優しい空間となればよいと考えます。



▲大阪府堺市茶山台団地の団地再生のプロセスとステークホルダーの協働
【参考】福本優(2023)「茶山台団地再生プロジェクトにおいて大阪府住宅供給公社が担った役割の実態」都市計画論文集, 58(3), pp.1312-1319